

第18回 第5分科会会議録（概要）		場 所	新宿区役所第一分庁舎 7階研修室
日 時	平成18年3月7日 午後7時00分～午後9時10分	記録者	【学生補助員】 渡辺・久保田
		責任者	区事務局（松浦・池田）
会議出席者：21名 （区民委員：14名 学識委員：1名 区職員：6名）			
<p>■配付資料</p> <p>①第17回会議録</p> <p>②中間発表会の意見集約（第5分科会）</p> <p>③提言に向けてのスケジュール（案）</p> <p>④提言に向けての考え方（参考）</p> <p>■進行内容</p> <p>1 はじめに</p> <p>2 学識委員より</p> <p>3 今後の進め方について</p> <p>4 中間発表会での意見集約</p> <p>5 提言に向けての検討</p> <p>6 まとめ</p> <p>7 事務連絡</p> <p>■会議内容</p> <p>【発言者】●：区民委員、◎：学識委員、○：区職員</p> <p>1 はじめに</p> <p>○： 配付資料の確認（4点）</p> <p>先月の中間発表会、皆さんお疲れ様でした。中間発表会の内容については、区広報3月15日号で簡単な報告をいたします。また、企画政策課のホームページ「新宿区民会議」の部分で、当日の会議概要や資料も含めて、掲載しています。お時間がありましたら、ご覧いただければと思います。本日、廣江先生はイタリアへの海外出張のため、欠席です。イタリアの地域産業について、調査されてくると言うことで次回の分科会でお土産話をさせていただけるのでよろしくお願いいたします。</p> <p>本日の配付資料の中で、配付資料②「中間発表会の意見集約（第5分科会）」は、中間発表会での第5分科会に対する意見と午後の部の区民交流会で皆さんに記録を取</p>			

っていただいた意見等をまとめたものです。配付資料③「提言に向けてのスケジュール（案）」は今後、どのような形で分科会を進めていくかと言うこと案で、後ほどリーダーからお話いただきます。配付資料④「提言に向けての考え方（参考）」は提言に向けて、廣江先生とも相談しまして、参考資料として、お配りしています。本日の進め方ですが、まず橋本先生にお話いただいた後、今後の進め方について、スケジュール等も示しながら、リーダーからご説明いただきます。その後、中間発表会での意見集約ということで、各分科会の発表を聞いたこと、区民交流会で意見交換されたことをふまえて、皆さんで中間発表会の反省、感想を述べていただきます。また、中間発表会を終えて、今後どのような形で分科会を進めていくかということをご議論いただきたいと思います。最後に、まとめ、事務連絡という形で進めていきたいと思っています。では、橋本先生から一言お願いします。

2 橋本先生より

- ◎： 中間発表会お疲れ様でした。先月、中間発表と言うことで第1分科会から第6分科会までの発表を皆さんと一緒に聞きましたが、手前味噌ではありますが第5分科会の発表がよかったかなと思います。いくつか理由は挙げられますがやはり本質的な議論をずっとやってきたおかげで物事をシンプルに定義できたこと、もちろん他の分科会がどうこうという訳ではなく、あくまで第5分科会の特徴がでていたということで廣江先生にもご評価いただいたと思います。「産業、文化・観光」という3つのテーマを私たちはどういうふうに捉えていくかということをご提案できたのかなと思います。午前の部では発表者のお力、午後の区民交流会では皆さんのお力で、第5分科会としての考え方を他の皆さんに示せたのが成果だったのではないかと思います。まずは、やはりこれまでの経緯をふまえてかなりのことを議論してきたというのが実感だろうと思います。では、それをもう議論したからやらないのではなくて、それをどういう考え方、見方でやるのかということにこれからの意味、意義があると思います。さらにそのあたりをふまえながら、もう一つは6月の提言に向けて、具体的な提案をどういうふうにまとめていったら良いのかということでもまた皆さんのお力をお借りするかと思います。そして、その意味では三段ロケットの二段目は上手くいったと思いますので、引き続き「産業、文化・観光」を今度はどのような形で具体化していくか、最初に皆さんからいろいろな問題点を出していただいたと思います。ただし、このまま行くというよりはもうひとつ進んだ形を共有しながら、最終的な個別の問題解決にはどうしていったら良いか何段階かの過程を踏むといったところが具体的な作業になっていくのかと思います。今まで中間発表会に向けて議論してきたわけですが、もうひとつ、他の分科会の発表内容、他の活動を知ることによって第5分科会の意義とは何かということもあわせて確認

できたと思います。これからは、前回までのことを再確認して作業を深めていくという形になっていくと思います。以上です。

○： どうもありがとうございました。では、提言に向けて、今後の分科会の進め方及び中間発表会での意見集約を、リーダー・サブリーダーを中心に意見交換していただきたいと思います。では、リーダーの方よろしくをお願いします。

3 今後の進め方について

4 中間発表会での意見集約

5 提言に向けての検討

●： それでは引き続き進行させていただきます。配付資料④「提言に向けての考え方（参考）」がございます。これについて若干説明させていただきます。中間発表会当日にこの表をパワーポイントにして、発表、説明しました。私たちの眼目としては常日頃、先生方からフレームを頂いている中で、産業と文化と観光というものは個々に独立したものではないとずっと議論してきました。その中で、産業と文化がきちんと位置づけられ、伝統を反映したものであって、なおかつ強力なものであればそれ自体が観光化するだろうという図式を作ってきたわけです。これについては、廣江先生から、基本的にはこれで良いが、それぞれ具体的にイメージしていくという作業の中で、生活の視点も必要ではないかという重要な指摘がありました。従って、産業、文化及び見えない形で生活という視点は入っていますがより生活の視点を出して行って、それ全体が観光といった括りになるのではないかと思います。そこで生活の手段をどう考えるのかということや、特に廣江先生の指摘をそのままお伝えしますが、これからはこういう枠についてより具体的に定義づけをしていくこととなります。従って、産業は生活をするための手段であるという文言をよりつき詰めていくと、では私たちが考える生活とはなんだろうとか、あるいは生活の手段とはどういうものだろうかということになってこようかと思います。そして、文化は人間力の集積であるということについても、人間力とはなんだろうとか、それをどういうふうに考えていくのだろうかなど、資料に稠密なつながりがありますけれども密度の高いつながりとはどういうことをいうのだろうか等、具体的にかなり奥行きまで議論したうえで定義づけていくとおのずから新しい展開がでてくるだろうということです。中間発表の総括については、皆さんそれぞれ様々な総括をお持ちだと思いますのでとりあえずたたき台ということで示しました。中間発表当日の様々な意見もここに集約されてございますし、また様々な印象をもたれたと思いますのでその辺りを話し合っ、次のステージへ移りたいと思うのですがよろしいでしょうか。では、サブリーダーの方から順番に、個々の感想、全体の印象などを述べていただきたいと思いますのでよろしくをお願いします。

- : 当日はタイムキーパーをやらせていただきました。その時の印象は第5分科会の発表はコンパクトに集約されていて良かったと思います。午後の部も全体的に良かったと思います。
- : 午後の区民交流会で、他の分科会を回りましたが、歴史のところは地域ごとでこちらと重なっていたり、地域では、地域の活性化で重複があったりしていましたのでそのあたりの調整をしていかなければいけないかと思いました。歴史の方にこのお話をしましたら「そちらは歴史と言いましてもソフトの面をやっていらっしゃるようですが、私たちはハードの面を構築したい」という話がありました。また、まちの活性化といっても、商店の活性化がそちらには入っていないという面がありました。そのため、やはり重なっている部分についてはこちらがそのどういう面をやっているのかということこれからはっきりさせないと提言の時に、問題になるのではないかという感想を持ちました。そして、私が第5分科会の席に戻った時に、退職後すぐの方が、自分は地域に入っているいろいろやっているの今日は参考にしたいということでみえていましたけれど、その方は地域の古い体質に飽き飽きしております、区民会議で新しい基本構想、基本計画を作るのであれば、その地域の古い体質がある限りは立派なものを作っても駄目でしょうとまでおっしゃっていました。これは印象的でした。
- : それでは時間まで実りある話し合いを続けたいのですが、中間発表については、立ち止まってそれぞれ評価をしていくよりも、6月の提言に向けて、本当に時間が無い印象を受けることもありまして、今後どうしたらいいのかということもふまえながらそれぞれ反省、展望などをお話いただければと思います。これは後でふれればいいことかもしれませんが、6つの分科会の中で、第5分科会が立っているポジションは他の分科会とも密接な関係のある分科会でございます、展示の内容を見ているとずいぶん重なる部分があると思っております。こういった資料で見ますと他の分科会からも積極的なご発言があるのですが、今後そういった関係のある分科会とどういうふうに手を携えてやっていくかということもふまえて、独自性を持ちながら他とのネットワークをしていくという作業も必要だろうと思います。それからもう一点については、第3分科会だと思いますが、具体的にいろいろな視察を兼ねた現地のまち歩きをやっておりました。これは私たちも最初に話し合った事ですが、結局そのままになって実現していないのですけれども、この中で、商店街の問題とか、あるいは伝統産業の問題とか、文化の問題とかいろいろな問題がございます。これらの問題について、それぞれ認識を持っていらっしゃる方、現地で考えを深くされている方に案内してをいただいて私たちの認識を深めていただくことがより効果的ではないのかと思いますが、そういう方法をふまえて、今後どうして行くのかということも中間発表の印象を交えてお話いただければいいかと思いますがどうでしょうか。

- ◎： 全員の意見を伺ってはいかがでしょうか。
- ： では、ひとり3分程度でお話いただきたいと思います。
- ： 私も第5分科会の発表については、好印象というか会場の雰囲気も柔らかくていい印象だったと思います。厚いパンフレットを頂いても、あまり濃い内容ですとそちらに目が行かないのですが、本当に原稿に目をやることなく語りかけるような調子で発表していただきまして、会場も和らいだ雰囲気でもよかったと思います。全体的な印象としては、分科会によって温度差というか、今を考えてしまっているところ、先を見ているところと非常にバラバラで、分科会によってはピンポイント過ぎてしまって熱くなり過ぎている。外から見ると区民会議としてはもう少し先の話をした方がいいのではないかと。例えば、子育てをしている人たちのところを見ますと今の子育てをどうしようかという話になってしまう。そして、老人にしてみると今の私たちをどうするのか、我々の分科会でもそうですが20年後といいますが、我々も現役を退く時でありますし、むしろ子育ての世代というのは、学生補助員の方とも話したのですが、彼らが本来その場にいるのが理想で、彼らが所帯を持つ頃、子供を持つ頃の新宿区はどうあるべきかという話であり、今、困っていることでは解決に繋がらないような気がしました。他の委員もおっしゃるとおり相互の分科会のつながりはあるのですが、見据えている先があまりにもバラバラで、今一度、廣江先生のお言葉で目標としてどのくらいの高さの山にどういう形で登るのかということ、皆さんで好きな方向から登るのではなくて、そろそろこの位置から登りましょうということを決めてもいいような時期にきているのではないかとというのが感想です。
- ： 文化とまちづくりの2つの分科会に参加しまして、午後はまちづくりに参加しました。両方とも、非常に有意義なまとめで皆さんを含めて、特に中心になった人たちにありがとうございます。これからもよろしく願います。もうひとつは、これから先どうするのかということですが、まちづくりの関係と周辺地区協議会というのが出来まして、私は新宿駅周辺地区協議会の理事になりまして、今度、都市マスタープランを考える分科会のリーダーになりました。そこでも話したのですがポイントとして、仲良く楽しくしましょう、時間を大切にしましょうということをお述べました。その時間を大切にしましょうということについて、個別の集まる時間を大事にしましょうとか一人3分間の時間を大切にしましょうという話です。6月の提言に向けて有効な討議をしましょうという中に、10年後20年後見据えるのだけど、では来年はどうなるのかとか、現実に区が動いていることはどうなのかとかとても大変な話だと思います。
- ： リーダーの発表は一度自分の体を通してから皆さんにお伝えしているということでもわかりやすく説得力あるといえますか非常に聞きやすいものでした。パワーポイントで文章がたくさん並んでいる分科会が多い中、第5分科会は最初にいろいろな話

をしただけに考え方の基礎はかなり煮詰まってきたのではないかと思います。それがリーダーの説明で非常に分かりやすく表れていて、パワーポイントも綺麗に作られていて良かったと思いました。それから反省ということでは、今回は中間ということで納得しているのですが、発表を見た人の中から、今後どういうことをするの、どういうことをまとめてくれるのと言うのがあまり出ていなかったと言われました。他の分科会としては先ほどもでていたように第1分科会が非常に熱いというか切実に困っていることをそれぞれの方がおっしゃっていたことが非常に強い印象を受けました。10年後20年後が大事なのではなく、今が大事だということで強いメッセージが伝わってきました。以上です。

- : 当日は第5分科会だけが中間発表をしていて、他の分科会は最終発表をしていたように思いました。会場に来ていた方からの意見では他のグループが随分細かいデータも出していたこともあります。第5分科会ももう少し具体的なものを出して欲しかったということを知りました。その中で、まちの駅のことや図書館をまちの情報センターにするという言葉がとても印象に残って、そこから考えるのがわかりやすかったという意見も出ていました。以上です。
- : 第5分科会の評価は3つのテーマにまとめてきたということで皆さんにわかりやすいものだったと感じました。しかし、分科会ごとにスタンスの違いがあり、今の課題に取り組むことが大切と言ったところなど、若干ずれがあったと思います。私たちの発表は話が抽象的だったなと思いました。今後は、現状と解決方法をもっとはっきり示せるように進めていけばよく、これからは各分科会のリーダー間の連絡を密にして、分科会ごとの進め方をわかりあうことが大切かと思えます。
- : 確かに第5分科会でも最初は将来よりのことよりも現在を見ていて、今その域を出てきているところです。他の分科会をどうこう言うわけではないのですが、中間発表というのは経過報告です。まずまずではないかと思いましたが、これから具体的な提案をしていくことに対して、図書館とかまちの駅について、私自身正直に言ってどうイメージしたら良いのかわからないとか理解不足なところがあります。これを具体化していき、ひとつひとつ取り上げていって中間点ではなくて、具体案として出していくことは大変な難しいと思いました。今までは横並び状態でしたが、これからは全力疾走していく時だと思えますので、重責があると思いつつも不安も感じています。
- : 中間発表ということであった訳ですが、今まで皆さんのおっしゃったことに尽きると思えます。それで今後は、今までにも話に出てきましたが、新宿の特性、産業、文化、観光の特性をしっかりと共有する必要があるのではないかと思います。その上に立って、考える視点で、私自身が不足だと感じたことは、新宿区は東京都を代表する区のひとつですから、国や都との連携についても最終発表では考え、頭に入れておいたほうが良いと思えます。以上です。

- : 2つ述べたいことがあります。1つは最初に第3分科会がまちづくりについて発表しました。極論するとまちづくりは全てを包含してしまう形で、少し住み分けを考えて、分科会の定義のことをやらないとオーバーラップしたり、不足したりといったことが出てくるので、各分科会のリーダー会議等で調整されるのが良いと思います。そして、通常こういった問題解決の場合は現状報告をきちんとやって、その現状報告について課題や問題を定義し、その後には解決案を考えていくといった事になると思います。今回の発表はよく言えばおおらかに皆さん自由にやってくださいというものでしたが、各グループの中では理解できるでしょうが、一般の区民の方からするともう少し統一性のある流れがないとまったく独立した分科会の発表になると感じました。そういう意味で2つ目の話ですが最終発表するにあたって、この間の中間発表と同じように各分科会がまったく独自に発表して良いのか、あるいはある程度流れを共通化するのか、事務局がどう考えていらっしゃるのか、全く中間発表の延長でいいと考えていらっしゃるのか、書類を作る場合のようにある程度フォーマットのある形が良いのか、私はあったほうが良いと思います。それから前回の分科会で配付されました新宿区区民意識調査（要約版）ですが、この中の新宿の歴史・文化、新宿の観光・産業の項目にあることと、今回の発表ではだいぶ流れが違うなと感じて、全く独自に将来の夢を語ることはそれでいいのですが、実際の区民の意識がどの辺りにあるのかということはこの調査の中に垣間見て、それとの関連を相互調整することが少し必要なのかと考えている次第です。確かに10年20年と先の話ですから、足元だけを見るわけにはいかないのですが、このように現実的に区民の意識がでているのでその辺りとの調整があると良いかなと感じました。以上です。
- : 当日の話を聞いて各分科会がどの時点にいるのかということに不思議に思いました。子育て中の方は今が大事だと思って一生懸命語りますし、資料も学校のレポートのようにたくさん出ていました。それから第5分科会のようにテーマをひとつに捉えて、まとめてくださればとてもよくわかりますし、私も他の分科会のこと少々わかってきましたのでこれからどうしたらよいかというところを、区民意識調査などを読んできましたのでそれもふまえて発言させていただきたいと思います。この前の中間発表は地域の重なるところが何箇所かあるといったことがありましたので、それぞれの分科会の方と発表やレポートについて、照らし合わせて行うと良いのではないかと思います。
- : 皆さんの確なご意見ありがとうございました。中間発表は6月の提言の発表のためにいろいろなアイディアは残しておこうということで、そのあたりは詰めてきませんでした。ここにある当日の資料のように私たちのアイディアの一部を出してきたのですがそれはまだ詰めずにいるわけです。いざ提言になるとそこは本気で考えていかなければならないので、これからが全力疾走していかなければならないという

ことです。時間的な制約もあり、プレッシャーを感じていまして皆さんとも同じ思いです。今いくつかのご指摘がある中で、では6月にどういうレベルの提案をするのかという話をされたわけですが、山であればどの辺りの高さの提案をするのかということをお私たちが本当にふまえていかなければいけないことです。先ほど区民意識調査の話も出ましたが区民との意識のずれをどうしていくのか、あるいは実際どういうふうになそれを担保していくかなど、いろいろのことを含めてこれから提案をしていくのだらうと思います。そして、国や都の動きも無視していくわけにはいかなないので、そうすると相当な作業がありますし、もうひとつは第1～第6までの分科会の一連の流れと言うのも、第5分科会が独立してやっているわけではないので全体の提言としていくとその調整もしなくてはならない。本当にこれは大変なことだと思直しています。6月の提言に向けて、形にしていかななくてはならない。出したものがあまりにもずさんであれば、第5分科会は何をやってきたのかというお叱りを受けるわけで、それをやっていくために具体的にどうするのかということをお今日芽生えが掴めればありがたいと思っています。また、先程、質問にでたことを事務局から説明をお願いします。

- ： 中間発表会が終わりまして、3月10日に各分科会のリーダーと学識委員の方にお集まりいただきまして、世話人会を開催します。そこで、今申し上げられたようなことを含めまして検討していきたいと思っています。中間発表は各分科会に任せる形でフォーマットとかの決まりごとはあまり作らなかったのですが、提言については、まだ決定ではありませんが、ある程度統一的なフォーマットを作っていくべきではないかという意見があります。その辺りも含めて、今後、世話人会で詰めていきたいと考えています。あくまで中間発表と違って、各分科会で自由な形にはならないと思います。あと他の分科会と重複や横断するテーマにつきましても、世話人会などで調整していきたいと考えております。
- ： 他に意見を補足されたい方はいらっしゃいますか
- ： リーダーの発表は全体の中で集約された形ではありましたが非常に抽象的で、他の分科会では現場主義というか個々の現場の話が出ていたように思います。その点からするとせつかく第5分科会で産業なり文化なり観光も含めて出てきた話をよく知るために、新宿に住んでいても、他の地域について知らないことが多いので、実際に現場に行き、感じてみるとだいぶ話が変わってくるのではないかと思います。
- ： 確かに、多くの地域を知っているわけではないので、当初から落合に行ってみるとか、新宿の駅前行ってみるといった話が出ていたわけですが、それを現実にやる時期にきたかと思っています。月2回の会議の中でいうよりも別の日を設けて、例えば、土日を使ってもいいということにもなるかと思っています。少し話が先に進んでしましますが、話し合ってきた事例には、商業の話があります。新宿には約103の商店街がありますが、とりあえずここにいる区民委員が関係する商店街に行ってみよう

とか、伝統産業だと別の区民委員の方、また、例えば「まちの駅」が実際どういったものなのか駅前に行ってみるとか、私は本郷の樋口一葉旧居跡の井戸の近くにある個人が開いたまちの駅を見ましたが、そのようにとにかく現場を歩くというのは良いもので、問題把握が非常に早くできるといったことがあります。

では、橋本先生、ひととおりに聞きになって、何かあればお願いします。

- ◎： 私の役割は皆さんの意見をどう整理していくかということだと思っています。今まで皆さんがお感じになってきたこと、第5分科会としてやってきたことはほぼこれで良いのではないかと思います。では、さてこれから何をやるかということをも具体的にどうしていくかということで、私から2つ申し上げたいと思います。ひとつはこれから具体的なデータ、中間発表の中では、細かいデータや情報など個別のものを出しているところもありましたが、我々も考え方はこれで決まったわけですので、今後はそういったいろいろなところに踏み込んでいく必要があるだろうと思います。もうひとつはこれから具体的な作業が多くなっていく中で、私から皆さんにお話したいのは、作業が多くなってつらくなるとか、時間がなくなるというよりも、積極的に参加して楽しむというような姿勢で是非臨んでいただければと思います。作業は実際にやらなければならないことですので、そういったところを併せ持って先ほど皆さんがおっしゃっていたこれから具体的にどうやっていくのか、どういうことを示していくのかというところの作業に入っていくのかと感じています。
- ： 先ほどの具体化していく問題ですが、あれもこれもとやってしまうと焦点がぼけてしまうので、例えば、図書館ということをおっしゃるのであれば、図書館をいったいどうするのかということで、産業で1つ、観光で1つというふうにとつずつやったら、かなり問題点になることが多いと思います。具体的な事例を挙げると同時に事例を絞って、玉虫色にしないで、提言していった方がいいのではないかと私は思います。
- ： 一応、議論に入りかけているのですが、これでもう進めていいですか。私もこれに関連して言いますと、私の前に発表した第3分科会ですが、まちづくりということもあって、都市計画から緑の創生から非常に多岐に渡っています。それに引き換え私たち第5分科会は、いろいろと話し合いをしてきた結果なのですが、非常に絞り込んできたというか、自分たちの考え方を提示した。これはたまたま2つの印象的な分科会が1番と2番に発表したと思います。第3分科会の話の聞きながら、本当に私たちがやることは何なのかと思いました。それこそ国家戦略とか、本当の都市計画の深みまでいった話まで出そうとすれば出せると思うのですが、そこが新宿区民の意識とのバランスとか、新宿区の将来計画とか、キャパシティの問題とか考えながら、本当に何点かに絞ってやるのがいいのか、その辺りはやはりどの辺の高さを設定していけばいいのかと思うのですが。ちょっと違うでしょうか。あるいは、非常に単純に思うのは、まちの駅、モノレール、あるいは芸術文化賞など、いろい

ろな素材が出ていたわけです。それをひとつひとつやっただけでも非常に面白い素材です。私もそれぞれに興味をもって聞いてみたい、深めてみたいという気がしたので。それをそっくり提案できるのかどうか。単純に言えば、例えば、今すぐできること、近い将来できること、やがて目標にするという形で、遠い将来やっていくこと、という3段階の分け方をしていきます。その場合の近い将来やっていくというのは、例えば、10年後なのか、あるいは20年後のことなのか、あるいは5年先のことなのかという、その辺りは個人的に私が混乱していることなのかもしれないですが、少しできていないところがあってその辺りはいかがでしょうか。

- ： 区民会議の性格として、もともと最初から10年後の新宿をどうあるべきかというテーマがあったと思うので、その近未来、10年が近いか遠いかは別として、元々の本題に沿って10年後の産業、10年後の文化、10年後の観光、3つの中からひとつだけテーマを選んで、10年後はこうあるべきだということでもまとめていくのがひとつのやり方だと思うのですが、どうでしょうか。
- ： 2人の意見に申し訳ないのですが、やはり基本構想というのが一番上にあるのですよね。そうしますと、ここでピンポイントのものを出しなさいと昨年6月の区民会議全体会で区長がおっしゃったわけではないと私は理解しています。やはりこままでの中間発表でも、働きたくなるまち、住みつけたいくなるまち、行ってみたくなるまちということで出してきました、今日の廣江先生のアドバイスでも、生活に視点を向けたらという話も出てきているとすれば、イベントをやるわけではないので、目玉商品だけ作っても、私みたいに普通の生活をしている人にとっては何の意味もないのです。それから、私は消費者生活センターのことをどこかに入れていただきたいと思います。やはり、現在の基本構想にもきちんと消費者の自立で、商業を支えていく消費者の育成ということをしないと商業が発展しませんということも書かれているように、やはり生活に根ざしたということであれば、ピンポイントはピンポイントとして、出すのはいいのですが、そのほかに項目を挙げて全体を見渡したところ、それから目玉商品というような感じで出していただきたいと私は思っております。
- ： 今の話はそのとおりだと思います。ただやはりこういった10年20年先を見据えるというか、見据えて考えるということになると、やはりピンポイントだとかというものではないのですが、ここに出てきたものをただ羅列するということでもないし、提言として、載せるということも必要かもしれないですけど、分科会として、やはり出来ること、例えば、シャッター通り商店街、あるいは図書館、何かひとつ、いろいろある中で取り上げて、それをどう10年後20年後とかに解決していくのかという指標、指針みたいなものを作らないといけない。今日、明日のことももちろん大事ですが、でも今日、明日のことはここでやる話とは違うのではないかと。ただ現状を無視して10年後はバラ色というわけにいかないのは事実です。その辺り

は矛盾点が含まれているかもしれないのですが、やはり10年構想というのは、足元のことだけではないと私は思います。決してピンポイントではないですが、玉虫色ではないと思うのです。その辺りの調整をお願いしたいと思っております。

- : 少し誤解されていますが、私は両方出せばいいということです。それだけではなくて、そこを誤解なさらないようにして下さい。
- : 今、皆さんのお話を伺っていきまして、国や都との関わりという話が出てきて、私はとても驚いています。ここの区民会議というのはそこに参加している者の意見を区に反映しようということで始まったと思うのです。だから自分たちがかなり話をきてきて、この分科会でひとつの共通のものとして出てきたのが、いろいろな情報がたくさんあるのに、それが区民の人たちみんなに伝わっていないのではないかとというのが大きく出てきたように思います。それを広めるにはどうしたらいいかというところで、いろいろなインターネットを使うとか、図書館を情報センターにするとかいう話が出てきました。そういう提案もしてきたかと思うのですが、その自分たち、生活している人たちが、ここが足りないとか、区が出してきたことに書いてないことを自分たちが肉付けしていこうとして、始まった会議だと思えます。区が出してきたものを、再考すればいいのではないかと私は思ったのですが、国や都とのことも考えていくとなると少し難しいと思えます。
- : 今の発言に続けて申し上げますと、いろいろ勉強会をやって区によろしく願いますというレベルではなくて、本当に東京を代表するまち新宿であり、日本の中心となる新宿であるということで、先頭をきって区民会議というのを立ち上げて、地区協議会と連動させて運動していく。だから本当に10年後は当然のこと、30年後40年後、この東京の中心の新宿がどうあるかと。それで今の国とか、東京都とか、新宿区の学識経験者もお役人もいろいろな方がそれぞれやっているけれども、それでうまくいかない部分をNPOや市民などのいろいろな方が一緒になってやってきたので、とにかく非常に高い目標というか、目標に置いているところは相当高いところに置く。一方で、6月の提言の中に、有効な提言を入れていく。そしてそれが今度、来年、審議会にかけるとか、議会に通すとかいうこともあるけれど、さらに10年後20年後の中にどういう提言をあげていけるか、活かせるような提言をここでもしなくてはいけないということです。次回以降、具体的にまとめたものを出したいと思えます。また、他の委員の方で自分の考えを出していただいて、分科会の中でどうつなげていくかということをやっていただけるとありがたい。
- : お話を聞いていると、この段階になって一つの方法としては、委員ご自身が夢やまちづくりなど思い描いているものを新宿の区政に反映させようということですね。それを具体的に提案できる段階だと思えます。それを私たちは中間発表会において、全員で第5分科会のプレゼンテーションをしたのですが、同じように委員ご自身の提案をこの第5分科会で皆さんの討議の材料として出すという方法もあると思いま

す。例えば、図書館だと、今どなたかが言ったけれど、実際図書館をどうするのかということは何となく我々も漠然として今のままではいけないだろうと思っています。それを情報センター化するというのは言葉ではわかるのですが、具体的にそれが細部にわたってどういうふうに、誰が担って、どのような予算が必要で、その予算をどこから持ってくるのかという具体的な提案として、皆さんの前に提示してほしい。このところは議論のルールとして、足を引っ張るのではなくて、できるだけそれを新宿区に提案できるように皆さんがそこに参加、検討することでより強いものになります。そのように個々の委員がすでに話の材料の中にたくさんお出しになっているわけで、例えば、マイスター制度をどうするとか、産業支援をどうするか、それを提案した委員がひとつひとつもう少し強固な具体案を出して討議していく。それを最終的に6月の提言に残すかどうかを決めていく方法もあるのではないかと思いますのですが、どうでしょうか。

- ： 地区協議会が発足して、動きだしているわけですね。そこでもって、その地域とか、その近隣とかの問題や現在のこと、1～2年先のこととかを、私は参加していないので詳しくはわかりませんが、議論しているのではないかと。それと同じレベルというか、同じ考え方で分科会が持たれるのはどうかと思います。やはり、それは区がどういう位置づけで、どう整合性をつけていくのかということに私は疑問を持っています。だから、ここの分科会では、ピンポイントとかそういうのではなく、10年20年先に新宿区はどのような方向に向いているのかというレベルで考えていくべきだと思います。6月の提言で、地域で話し合っていることと同じことではないかというようになると、この区民会議は何を標語にしているのかなと思います。
- ： 第5分科会が取り上げる視点が、地区協議会の議論と重なるところもあるということですか。
- ： いや、そうではなくて、ただ、同じようなことを地区協議会で議論していることと、区民会議で議論していることが悪いというわけではないのですが、特定の地域の問題と新宿区全体の問題の区分けがどうなっているのかなと思います。何のために地区協議会が動き出して、何を標語としているのか。たまたまあそこはやってみたら新宿区全体に関わる問題だっていうならそれはそれでよしとするべきですよ。ただ、あそこの地域で持ち上がっていることを一緒にやったって意味はないです。意味はないというか、ここの区民会議そのものの真意が問われますよね。
- ： 間違っているかもしれませんが、地区協議会というのは地区の問題の、しかも直前の問題をやっていくわけですね。しかし、そういう人たちがばかりが集まってくるわけではない。町会長だとか、そういう方が集まっている中に、個人で参加されている方もいらっしゃるわけですね。そういう方の中から、例えば、非常にスケールが大きな地区を越えて新宿区全体に渡るようなものがもし出てきた場合にはそれはこちらとの関係でどこかで調整していくのではないかと思います。ただ、そう

ではなくて、地区協議会はあくまで地域のこと、全区を考えることとは思えませんよね。だけど私たちの場合は、ピンポイントを考えたとしても、全区を考えながら、ピンポイントを考えるという視点の違いがなければ、全くこれは意味がない。そういうことはお互いに住み分けているのではないかと考えていますが、どうでしょうか。

- : 地区協議会の状況について、区民会議の資料にもありましたけれど、区民会議は提言して少し経ったらもう解散ということですよ。ところが地区協議会は、初めは不明確だったが、今の流れは、それぞれに地区の問題を地区協議会単位で考えるが、区全体で連携し、いわば議会と新宿区とは違い、また町会とも違う地区協議会の連合体としてのあり方というような方向でやっている。地区協議会が始まったのは昨年10月からですが、11月に都市マスタープランについて、各地区協議会に区から資料が出ています。それから私は区議会も傍聴し、代表質問も聞きましたが議員の方も区民会議、地区協議会の両方を評価していて、どうもっていくのかということが非常に話題になっており、とにかく活用していこうという方向は間違いない。それをそれぞれに地域の方で皆さんまた確認されている。
- : だとしますと、今はそんなにご心配する必要はないのかなと思います。よく解釈しますと、新宿区はいろいろな仕掛けをして、様々な区民の意見を吸収していこうとしている。そこに区民会議があって地区協議会がある。それぞれややスタンスが違うが、もしかしたら同じテーマが出てくるかもしれない。同じテーマが出てきてもそれは構わないのではないのでしょうか。私たちは私たちで地区協議会は何をやっているか知っている必要はありますけども、同じ会ではないのでここはここでやって、結果的に同じものができたら、それは新宿区に両方から上がっていくので、区民会議、地区協議会の両方から上がってくれば無視できないですとか、そういうことになってくると思います。
- : 私が言いたいのは、区民会議で細かいことを、地区協議会でスケールの大きいことをやっていたら、これは違うのではないと思うわけですよ。
- : それは新宿区がコントロールする問題で、私たちが心配する問題ではないような気がするのですが。
- : もちろん、結果論としてそういう形になったら仕方がないと思うのですよ。ただ、あくまで我々が考えることと、我々が思ってきたことは10年後20年後どうなっているのかという未来構想だと思うのです。その焦点を外してしまうと、地区協議会と一緒にような話になってしまうと、いかがなものかと心配になってしまう。
- : そこは、どこまでの高さを登ったらいいかということに尽きると思うのです。私達は今ここで決めてもいいと思うのですが、今10年後、20年後というものを設定しましょう。それを全員が認識すればそこに集中できるわけですね。そうするとその中に、私たちはいろんな素材を提供してきましたけども、本当に目先のというか、

目前のピンポイントというものもあれば、非常に長い、それこそモノレールみたいなものは多分30年50年先のことだと思いますけども、そういう話まであって、その中で10年20年というものを選択していくということになるので、そこは今決めたらよろしいのではないかと思うのですがどうでしょうか。

- : 例えば図書館1つとっても、全区への情報の発信、発着といろいろある。こういう形の上にとって決めるのと、この地域の図書館はどうだとか、こちらの地域の図書館は今までいいよだとか、こういうものとは整合性が無いと思うのですよね。だからここでやることは、例えば、図書館はこうあるべきだという構想を練ったら、新宿区全体がそういう構想であるべきだということになってくるのです。地域というのはうちの地域の図書館は情報の発信だけでもこちらはこうだよというふうにやったのでは、地域の問題と新宿区を考える区民会議の質の違いがわからない。要するに住み分けや違いがあるべきだと私は思っているのです。
- ◎ : お二人の言っていることは観点の違いで、基本的に同じことをおっしゃっていると認識しております。具体的な時間というのは限られており、やはり皆さんに実感のある提案、判断をしていただきたいですし、実感のある結論を出していただきたいと思っています。区民会議の趣旨というのは、それが重複しているか重複していないか、もしくはそれが本当に必要かということについて、僕がひとつの提案としてお話ししたいのは、具体化の中でお話していくべきということです。それぞれのプロジェクトを、図書館に関しては、私がやりますとか、新宿の文化のオペラに関しては私がやりますとか、それぞれのを皆さんが参加しながら、やはりこれは新宿区というよりは地域性で終わっているのではないかと、そういう議論とともに進んでいくとより皆さんの実感のあるご判断になっていくのかと思います。新宿区民会議および第5分科会の趣旨はそういうところにあるということは全員が認識していると思いますので、あとは方法論をどうやっていくか、どういう話し合いの枠組みをつくっていくかという手法論だけだと思います。考え方の話し合いだとか話し合いのための話し合いというのは既にもう中間発表までの段階で終了したのかと思いますので、もう意識はそこで統一してある。では手法論、どういうふうに手を挙げさせたらいいのか、もしくは、積極的に発言をしやすくするののかだとか、そういう側面的な部分が、今の段階なのかと思います。
- : 事務局に質問ですが、地区協議会ごとにこういう観点で議論をお願いしたいというのは出ているのですか
- : 地区協議会とこの区民会議の関係をもう一度整理します。地区協議会は特別出張所ごとに10箇所設置しており常設です。日常的課題の検討・解決や区に対して地域の立場から意見交換・提案していただいております。区民会議では10年後、20年後の新宿区の姿について考えていただいておりますが、当然重複する部分も出てくると思います。その意見の調整ですが、3月25日に各分科会のリーダー・サブ

リーダーの方と地区協議会の希望者の方で意見交換会を行います。そこで、いろいろなお話が出てくると思いますので、結果は皆さんにご報告いたします。

- ： そういう指針になるようなものが区から出ているのかどうかということを確認したい。同時に地区協議会は常設ということになっていますよね。区民会議は6月で解散でしょう。そういうことからすると、私の印象では、地区協議会には出ていないからわからないのだけど、どうも区の行政、特別出張所を地域の現場でどういうふうに具体化するか、あるいは問題点があるのか、そういうものとして位置づけられている。つまり、行政がやろうとすることの補完する意味合いがかなり地区協議会には課せられているのではないかなと。どうも町会単位で物事がいろいろと進んでいるというニュアンスがするわけなのですが、それとは全く違って区民会議は個々の立場で新宿全体のことを現状の問題からさらに10年20年先のことを考えましょうよという設定になっている。地区協議会はかなり行政の施策の問題点あるいはそれを補完していこうというそういう意図があるのかということをお答えいただきたい。
- ： 今言われているような意図は基本的にはありません。地区協議会は特別出張所ごとに、いろいろなテーマで行っています。ひとつの地区協議会の中にも部門といいますが、その地域のまちづくりや身近な問題などに分けています。出張所ごとにそれぞれテーマを考えて行っています。町会や各種の団体等からの推薦で参加されている方もいますし、区民会議と同様に公募で参加されている方もいますので、あくまで行政を補完する意味で行っているということではありません。
- ： 先生の言った「どうしたいのか」「現状と問題点」は今のことだと思うのですが、「解決方法」と「どうなるのか」というのは未来のことなのですよ。皆さんそういうところに「マイスター制度」や「まちの駅」、「モノレール」、「情報発信の図書館」だとか、いろいろなことをイメージして書いていらっしゃるのですね。ですからやはりこれを基本にして、叩き台を何本か未来志向で前のものをまとめる形で作業しないといけないのではないかと思います。今日は出てこれないけれども出てこれる人もいますので、そういう今までやってきたことを踏まえたらどうかと私は思います。
- ： 私も基本的に地区協議会のことは存じ上げております。産業の方で出ている立場で言えば、染色の外郭団体的な位置付けで染色協議会がございませうけども、こちらの考え方は地区協議会とは別で、今をどうしてくれるのかという働きかけを一生懸命新宿区にしている。ただ、今回中間発表の意見カードを見ますと、生業が成り立っている人が話をしても本音が聞き出せないのきれいな事だと言われてしまう。ところが、実際は食べていない、食べられていないという意識の問題なのですね。何かしてくれるのを待っている人と、一人でも何かやろうとしている人の違い。それから、今都会型の産業は新宿に限らず、京都でも金沢でもとにかく仕事をしなくなっ

ている。ものづくりが本業なのに、売り歩くことに専念をしていて、一週間も3日も4日もデパートにいてなんで技術が覚えられるのか。それがまず後継者不足の第一の原因をつくっています。いかに職人を座らせるかというのは染色業の中で伝統工業の最大の課題となっています。まず基本的には私があえて区民会議に出てきたのは、この新宿区近未来ということで「歩きたくなるまち」「住みつづけたくなるまち」「行ってみたくなるまち」という3つのかなりしっかりしたものも出ていますので、今、地区協議会というのは常設でこの先5年10年続きます。10年というのは短すぎると思うのですね。あっという間に追いついてしまいます。ですから、区民会議は6月に提言を提出しますが、20年というまず目標を決めてしまって、この3つ、「働きたくなるまち」に関して「住みつづけたくなるまち」に関して「行ってみたくなるまち」に関してゴールは20年目。この20年目に、例えば、まちづくりにしても、そこにたどりつけるかという個々のプランを描いてみて、具体的な事例として挙げていくということで絞り込んでいけば、最終的に皆さん同じようなものをもっているけども一番現実的で実現しそうなものをいわゆる提言の中の事例として挙げればいいのではないかという気がします。ですから、おそらく6月に提言を出したところでそれがまともにそのまま行政に反映するとは思いません。おそらく審議会なり議会なりを経て、練りに練って、一応プランとしてもう一度挙がってくると思います。そういうときに地区協議会に挙がってきたものごとに、それがどのような形で実現できるかというところではじめて2つが1つになると思うのです。ですから、あくまで1つのものをなにか具体化しようとするよりも、抽象的なものでもいいから自分たちのもっている夢を果たして20年後に実現できるかというところを、これからはワーキングではなくて個々の課題として積み上げていく。それを皆さんで持ち寄った中で共通の接点を見つけて、例えば、まちの駅でテーマを掲げてみたり、あるいは「住みつづけたくなるまち」で図書館を中心としたものでまとめてみたり、それから「働きたくなるまち」で産業としてまとめてみたりする。いわゆるそれぞれエキスパートがいらっしゃるわけですから、その中で絞り込んでいけば自然に6月の提言というのは無理なく、自分の仕事をしながらまとめあげていくことができるのではないかという気がします。

- : 具体的にいくつか提案ありましたが、多くの方は今自分が思い描いている構想なり夢を具体的に提案してみるということですね。それが提言になりうるか、なりえないかというのは全員の判断もあろうかと思いますが、とりあえずいくつも面白い案が出ていますので、そこから着手するということがいかがでしょうか。かなり具体的におっしゃっていた方もいましたが、言葉で聞いてもわからないので、それを発表した方がいいと思います。皆さんの案を持ち寄って、順番はそのとき話し合って決めるということで。モノレール、図書館、まちの駅などで、どうでしょうか。そこから始めると、また展開が見えてくるのかなと思いますし、具体的に6月に結び

ついていくと思います。

- ： 基本的には最低20年後ということ、6月までにまとめなくてはいけないということは変わっていません。例えば、図書館のことでは、どういう勉強をされてどういうことを目指されているのか、これからはこうしたいということを教えていただきたい。どこかひとつ図書館を造るということではなくて、ネットワークを作るとか、そういう類の話があるかと思います。
- ： それでは以前から、いろいろな具体案を出されていますので、それを出した方に、もう一度、20年後の新宿の姿にしていくということで考えて、発表していただければと思います。ただ、例えばシャッター商店街というの、目前の問題なのですが、これを突き詰めていくと20年後の問題にもなりうるので、あまり20年後というのを考えて、自分でセーブしても、もったいないなと思います。それを20年後どういう問題にしようかという事をみんなでアドバイスしてもいいわけです。ですからいろんな案を持ち寄り、討議しながら最終的に残ったものしか提案できないわけですから、そういうことでよろしいでしょうか。
- ： では、次回発表していただける方はいらっしゃいますか。「まちの駅」だと他にも関係ある方がいらっしゃいますか。
- ： どこにいけば何の情報を得られるかということで、今は「みちの駅」もありますし、そういうものも新宿にもあってもいいのではないかと。要するにどこで情報を得るかというところでご提案申し上げました。あと新聞を毎日読んで、とにかくどこも同じような事を考えているのですが、基本的にはコミュニティという事があります。そしてこれは24日の朝日新聞なのですが、居場所づくりという事が話題になっておりまして、要はどこに集まってどういうふうにやればコミュニケーションが図れるか、情報が得られるかというところをもっと具体的にやればいいと思いますし、つくば市も散策マップというもの作り、まちの魅力PRとして動きだしていて、どこも同じようなことで考えて悩んでいるのだと思いました。ちょうど同じ時期に発表されていますので、これを具体的にどうもっていくのが今後の課題になるのかなと思ってお話を聞いておりました。
- ： 私はネット化について、話します。
- ： 私は、区民会議での地域のまちづくりやまちおこしの話をしようかなと思うのですが、その点で地区協議会に関してちょっと認識の違いがある。
- ： その場合、思いを語るのはとりあえず今までの中でやってきたわけです。具体的な案ですよ。20年後の新宿にはこうしたいという。それを出していただくだけでよろしいですか。
- ： 商店街は、現実にシャッター街になって、いろいろな意見のまとめの中にありますように、そこにマンションが建てられ、ワンルームがどんどん増えている。一旦、マンションが増えていってしまうと、寸断された商店街というのは10年20年の

間でなくなってしまう。そういう問題を抱えているのは、うちの方だけではない。新宿全体の商店街がみんなそんなふうになってきている。

- ： その場合に、現状分析や問題があるということに基づき、どうするのかという事をみんなで考えようということです。その具体案を出してください。では5名の方に大体一人15分ということで発表していただきます。そして、できるだけ具体的に話していただく事と、できればデータを持ってきていただき、大変ですが資料を配付していただきたいと思います。なるべくわかりやすく短時間ということでお願いします。できるだけ発表された案に肉付けしてあげるといった基本的な態度でやっていきたいと思っています。では、先程の見学の件について、サブリーダーに代わりますので、よろしくお願いします。
- ： 見学会ですが、具体的に産業・文化・観光で1つずつということにすれば、より具体的な視点が見えてくるのかなと思います。例えば、観光ではどこに行ったらいいかというご提案をお願いしたいと思っています。例えば、産業であれば、商店街、染色の工房のように伝統産業に重きを置くのか、現代の産業、商業を見に行くのか。具体的なご提案をお願いしたいと思っています。
- ： 提案です。落合地域は、今の産業・文化・観光の3つがまとまっているという事と、区の大江戸線観光ルートの調査で指定され、目を向けられています。そういうところでは観光だけではなく、地場産業もあるし、そういう地域の問題として考えてもらえればと思います。
- ： 産業のことですが、工房の玄関を外観から見たいということと、実際の作業を知りたいということが両極だと思えます。伝統産業の場合は仕事の中身を見たいという方が多いのですが、実際見てわかりやすい作業はそうそうあるわけではないので、もしよろしければビデオを持っていますので、30分いただければお見せできます。あとは、ビデオを見てから落合を探索すれば短期間に効率的に回れます。
- ： どういうふうに生業として成り立っているのかということですね。どうせ見に行くのであればその方がいいと思います。作業工程を見るよりも、伝統工芸をどう継承していくか、その部分を見に行った方がいいと思います。皆さん時間は限られています。その中で落合は産業・文化・観光が入っている。そこをよく知る人にガイドしていただき、一度に回った方が効率的だと思います。
- ： 神楽坂であればNHKで放映されたビデオで、観光と文化をまとめたものがあります。産業は商店街があるのでご案内できます。あとは新宿駅周辺でIT産業がどういうふうになっているのか興味あります。そこは見学できる場所はあるのでしょうか。
- ◎： IT産業といってもマンションの一室ですので、そこを見ても意味はないと思います。先程のビデオを見てから見学という案はすごく有意義で時間の節約になり、解説者の方がいるとより深く見られるという点で良いと思います。

- ： 第3分科会はまち歩きをして、そのルートができていますので、それを使う方法もあります。地区協議会でも歩いて回るコースもあります。
- ： 新宿区の地図がまず必要で、マーケティングが必要になってきています。シニア、OLが多いのかなど、その辺りを調査されないと意味がないので、その場所ですらどうしていきたいのか具体的に地図の中を通して、攻めていかないと戦略にならないと思います。
- ： では時間がないので、まず解説付きのビデオを見て、もう少し深めていきたい場合には実際に見に行くという形はいかがでしょうか。次回以降の分科会でビデオを見て、討議していく形にしたいと思います。それから、今後、議論を深めていくためにメーリングリストなども活用していければ、分科会だけでなく日常的に議論が詰まっていくと思いますがいかがでしょうか。意見等があれば、メーリングリストを活用して補足していければと思います。それから名簿を作成したいと思いますがいかがでしょうか。例えば、電話、FAX番号とメールアドレスだけです。議論を深めるということを目的として連絡先を公開という形にしたいのですがいかがでしょうか。
- ： では、次回に電話、FAX番号、メールアドレスのみの簡単なフォーマットを作成して、皆さんに回覧します。公開したくないという方がいらっしゃいましたら、ご記入なさらなくて結構です。賛同して下さる方だけ記入してください。
- ： まち歩きの後、懇親会やろうという案がありますので、できるだけ参加していただきたいと思います。

6 まとめ

- ◎： 私からは皆さんのこれまで培ってきたスキルと経験をぜひ反映させてほしいということと、意識は統一されており、方法論等だけの話なので、先程話があったように、これが本当に20年後を見据えたものになりうるのか、なりえないのかということころを皆さんの常識で判断していただきたい。なおかつ大事なことは、あれもこれもとやってしまうと埋もれてしまうということもあります。やはり第5分科会の斬新さと夢を語るということを反映していただけるような提案にして欲しい。6月まで時間的に厳しい作業になってくるのではないかと考えています。できるだけ楽しめるような分科会になっていくといいかなと切に願います。私の方からは簡単ですが以上です。

7 事務連絡

* 次回の分科会について

- ・ 3月24日（金）午後7時～午後9時 新宿区役所第一分庁舎7階研修室

* 4月の日程について

- ・ 4月10日（月）午後7時～午後9時 場所未定
- ・ 4月25日（火）午後7時～午後9時 場所未定

以上